

神様からのプレゼント

倉敷市立中洲小学校

五年生 田上 悠

しんちゃんの左手はかわいい。小さくてぶにぶにしている。

しんちゃんは、ぼくの弟だ。どこにでもいる元気なようち園児だ。ただ、ふつうの人とちがうところがある。それは、生まれつき左手の指が全部ないことだ。

最初はぼくも「何で指がないんだろ。へんなの。」と思った。でもしんちゃんは、ただ指がないだけで、とてもかわいい。急にぼくにあまえてくるのもかわいいし、泣いたり笑ったりいそがしくて、いっしょにいるとすごく楽しい。元気をもらえるのだ。

そうやって過すぎしていると、しんちゃんに指がないことなど忘れてしまわすう。しんちゃんは、くつ下も一人ではけるし、ボタ

ンもとめられる。コントローラーを使ってTVゲームもできる。一体どうやっているのだろう。心底、すごいなと思う。

そんなぼくの心に、少し変化が起きる出来事があった。それは、しんちゃんが健康診断を受けるために、小学校をおとずれたときのことだ。ぼくは、しんちゃんに会えたらいいなと思って過すぎしていた。きよろきよろしていると、ろう下を歩いていくしんちゃんを見つけた。しんちゃん、と声をかけようとしたとき、ぼくはどきりとした。しんちゃんは、左手をポケットに入れてかくしていたのだ。ぼくは、やっぱり、見られるのがはずかしいのかなと、ちくりと心が痛んだ。声はかけられなかった。

その後、友達から、

「お前の弟って、指がないんだな。」

と言われた。友達は悪気なく言ったのかもしれないが、心が鉛なまりのように重くなった。

ぼくは、このことを両親に話してみた。すると父と母も、しんちゃんの手を見てびっくりした顔をして、ひそひそと話す人に何度も出会ったことがあるようだった。あからさまに心ない言葉を浴びせてくる人もいたらしい。そんな話を聞くと、ぼく

は悲しい気持ちになる。しんちゃんはとてもいい子なのに。生まれつき、左手の指がないだけなのに。

少し気になったので、ぼくはしんちゃんに、

「ようち園で、友達に何か言われたこと、ある。」

と聞いてみた。するとしんちゃんは、笑顔で、

「なにもないよ。みんな、しんちゃんの手ってかわいいね、と言って手をつないでくれるよ。」

と言っていた。ぼくは、ほっとすると同時に、しんちゃんにはいい友達がいてよかったな、とうれしくなった。

四月から、しんちゃんは小学生になる。もし、手のことでしんちゃんを笑ったり、ばかにしたりする子がいたら、「指がない、というだけだからかうのはやめてほしい。しんちゃんの手はとてもかわいいんだ。」と言う。

しんちゃんの左手は、神様からプレゼントされたすてきな個性だと思う。しんちゃんの左手から、ぼくはたくさん大切なことを教わった気がするからだ。この神様からのプレゼントを、ぼくは、全力で守る。